

## 00 AALA ニュース 137号 内容紹介

やはりないと不便だというご意見をいただきましたので復活します。できるだけ主観を入れないよう努力します。

### 01 カストロ、最後の非核・平和論（2010）

正式演題は

**カストロは言う。「核戦争が起これば、全人類の命が“巻き添え”になる。いまそれは急速に現実化する可能性がある」**

最近、Global Research に再掲載された文章で、GR 誌編集主幹のチョスドフスキーがカストロと対談した記録です。チョスドフスキーによる再掲載の背景説明は以下の通り。

ウクライナの最近の情勢を踏まえ、2010年に掲載したこの記事の再掲載する。今日、軍事的エスカレーションは大変なことになっている。それは第三次世界大戦のシナリオにつながりかねない。和平プロセスをただちに開始し、両国が和平協定を結ぶことが何よりも重要である。

...（10数年前）カストロは、各国政府に向けてメッセージを発した。そして「核戦争では、巻き添えで全人類の命が奪われることになる。私たちは勇気を持って、次のように宣言しよう。核兵器も通常兵器も、戦争に使われるものはすべて、この世から消滅させなければならない」と訴えた。

...人々は現状がほんとうに深刻なのだということを理解するべきだ。そして戦争への流れを変えるために、社会のあらゆる場面で力強く行動しなければならない。

...遠大な「思想の戦い」だけが世界史の流れを変えることができる。その目的は、地球上の生命を破壊しかねない核戦争という事態を防ぐ想像力である。

### 02 Counterpunch 「構造的危機を迎えたイスラエル」

カウンターパンチ誌からの転載です。原題は「安定どころではないイスラエル」 How Stable is Israel?

以下、リードを引用します。

今こそ真剣に問うべき時だ。シオニズム国家「イスラエル」はどこまで安定しているのか？

イスラエルのユダヤ人社会は、深く根ざした分裂（virtue of deeply rooted divisions）によって、本質的に不安定な社会を構成しているのではないだろうか？ その分裂の根は、和解できないほど深いのではないか？

### 03 Globetrotter 「**タリバン対 IS、アフガンの未来を賭けた戦い**

原題は The Taliban and the Islamic State Continue to Fight for Afghanistan's Future

リードは下記の通り

タリバンがアフガニスタンを指導する能力には疑問が残り、不安定な状況が続いている。それはイスラム国が勢力を拡大する機会となっている。

### 04 A・ヒル「**ウクライナはなぜワグネルの乱を活用できなかったか**

数週間の戦闘を経て、この反攻作戦が成功するとの以前の楽観的な期待は達成されそうにないことが明らかになった。同時に、ロシアのワグネル・グループによる反乱、クーデター未遂にウクライナと西側は幸福感に浸ったが、短命に終わった。

### 04 JD サックス「**お金は世界を回る、そして世界は進歩する**」

原題は Money Makes the World Go Round – And Development Succeed  
論文の締めくくり： 大国が力を合わせれば、（債務問題は）解決できます。終わりのない、破壊的で、悲惨な戦争をするよりも、そちらのほうが彼ら（欧米諸国）の本当の仕事のはずです。

### 05 Al Mayadeen 「**インドネシア、VISA、マスターに代わる決済システム**」

原題は Indonesia launches national payment system to replace VISA, MasterCard  
スプートニク誌からの転載。

リード

今年3月、ジョコ・ウィドド大統領は「さまざまな地政学的リスク」から取引を保護するためには、金融コングロマリットの代わりに、地元の銀行が開発したクレジットカードを選ぶよう、関係当局に迫った。

## 06 短信欄

(1) 「各種ウクライナ和平案 まとめてみました。どれが現実的でしょうか」

新藤さんからの Letter です

(2) アチャル・プラバラ、ヴィトール・イドー 「次のパンデミックでは、キューバが世界でワクチン接種を行うことができるようにしよう」

新藤さんからの Letter です。著者アチャル・プラバラは、インド、ブラジル、南アフリカで医薬品へのアクセスを求めるキャンペーンを行う AccessIBSA プロジェクトのコーディネーターです。